

# ロタウイルスワクチンについて

おおにし内科・小児科

ロタリックスとロタテック、二つのワクチンはどう違うのか接種時のご参考になればと考えたので比較検討しました。

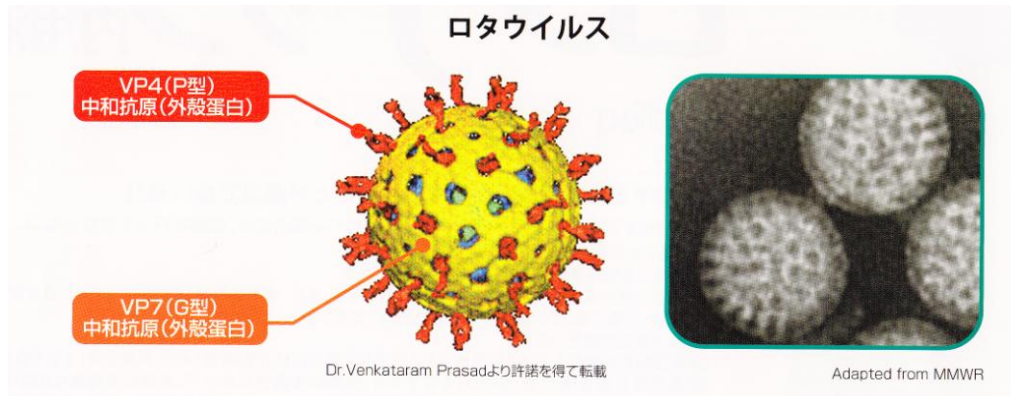
ちなみにアメリカの小児科学書によれば、ロタウイルス胃腸炎の予防効果において差が見られず、両方とも推奨されています。

	ロタウイルス胃腸炎 に対する予防効果	重症のロタウイルス胃腸炎 に対する予防効果
ロタリックス	79%	90%
ロタテック	74%	98%

最近聞いた話によるとアメリカではロタテックが公費接種されている、オーストラリアにおいてロタリックスで予防できない血清型が増えてきたのでロタテックに変わってきたようです。

当院では、ロタリックスを13名のお子さんに飲んでいただき、副作用を認めず、ロタテックに劣らないのではないかと考えております。

§ 1. ロタウイルスの構造（血清型）とは；



ロタウイルスは車輪状で、外層と内層のカプシドおよび内部のコア蛋白からなる粒子です。このうち、外層表面のVP7と外層表面の突起状のVP4はそれぞれGおよびP型を決定する蛋白であり、ウイルスの中和に関する主な抗原となります。

ロタリックスはG1P[8]の弱毒生ヒトロタウイルスを33代継代培養して作られ、外殻中和抗原P[8]が共通のために、主に流行している5種の血清型にも有効な1価ワクチンです。一方ロタテックは、弱毒生ヒトロタウイルスから二つの外殻中和抗原の遺伝子G1~4、P8と、ウシのロタウイルスG6遺伝子を組み込んで生成されたソアソータントロタウイルス5価ワクチンです。だから幅広

く有効であるように考えられています。

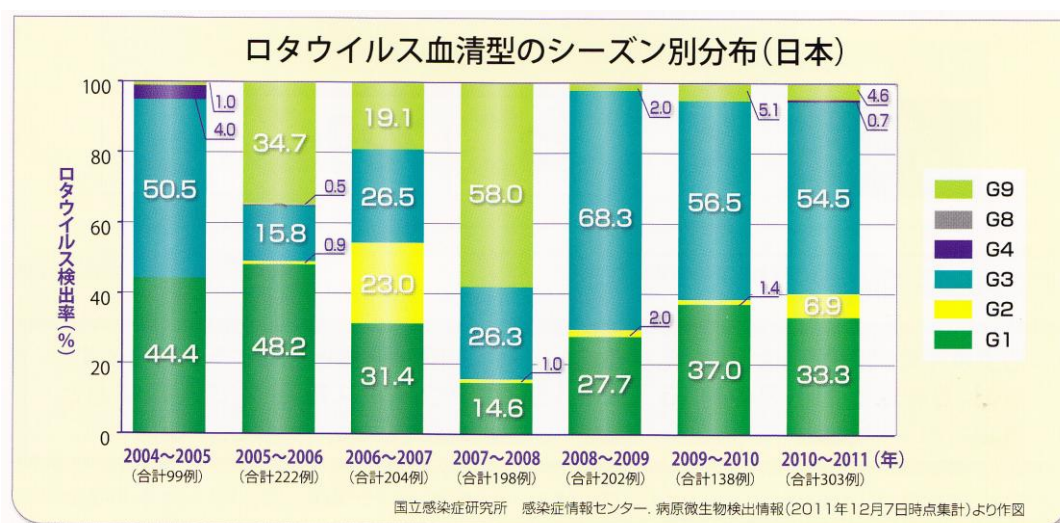
## § 2. ロタウイルスワクチンの効能効果・用法

ともにロタウイルス G1P[8], G2P[4], G3P[8], G4P[8], G9P[8]に対する予防効果が示唆されています。

ロタリックスの用法： 乳児に通常、4週間以上の間隔をおいて2回経口接種し、接種量は毎回1.5m lとする。生後6週から初回接種を開始し、遅くとも14週6日までに初回を終えて、4週以上あけて遅くとも生後24週までには接種を終えること。(アメリカでは2か月と4か月時)

ロタテックの用法： 乳児に通常、4週間以上の間隔をおいて3回経口接種し、接種量は毎回2m lとする。生後6週から初回接種を開始し、遅くとも14週6日までに初回を終えて、4週以上あけて遅くとも生後32週までには接種を終える。(アメリカでは2か月、4か月、6か月時)

## § 3. 最近の3年間はG3の流行が多い



## § 4. ロタリックスとロタテックの血清型別予防効果

	G 1	G 2	G 3	G 4	G 9
ロタリックス	96%	86%	94%	95%	85%
ロタテック	96%	82%	89%	83%	94%

乳児はロタウイルス感染を1歳までにかかるが、その後も繰り返して感染し、その血清型は、最初と異なり、だんだんと症状も軽くなるという。このことから多くの血清型をもつロタテックの優位が考えられるのだが、外郭中和抗原であるP[8]という共通抗原をもつロタリックスの有用性を否定できるものではない。